

式 辞

学部を卒業する皆さん、大学院を修了する皆さん、本日は誠に
おめでとうございます。新型コロナウイルス感染拡大というこれ
まで経験したことのない極めて困難な状況の中で、学びと研究を
継続し、今日の日を迎えられた皆さんの強い意志と努力に敬意を
表します。

また、今日まで皆さん方を物心両面から支え励まし、見守り続
けてこられ、この日を心待ちにしておられたご家族の皆様のお喜
びはいかばかりかと思えます。心からお祝い申し上げます。

本来ならば、皆さんと一堂に会し、旅立ちを祝福すべきところ
ですが、昨年につき、新型コロナウイルス感染の拡大防止のため
に、このようにオンラインを利用した分散しての卒業式・学位授
与式になってしまいました。残念でなりません。

特に、ご家族の皆様には、晴れの式典にご参列いただくことも
できず、本当に申し訳なく思います。これは、本学の社会的責任、
そして何よりも、皆さん方の命と健康を守ることを最優先した結
果であることをご理解ください。

さて、皆さんは、将来への夢と希望で胸を膨らませ、それぞれ
の世界へ飛び立っていかうとされています。これからは、本学で
これまで学んできたことを力に、社会の一員として、また一人の
人間として、社会に貢献する大きな役割を担うこととなります。
社会が求めているのは学士、修士、博士の称号ではなく、皆さん
の実際の力、知力や行動力であり、人間としての力、人間力です。

これから社会に出たら、様々な問題に遭遇すると思います。そ
の時は、失敗を恐れず、果敢にその問題にチャレンジしてください。
失敗しても何度もやり続ける意思を持ってください。失敗を
反省し、再チャレンジすることで、次の成功の可能性は格段に高
くなります。また、そのためには、絶えず学び続けることも重要
です。一生、学びとチャレンジを続けてください。

社会は今、大きく変わろうとしています。近年、人、モノ、情
報が世界を駆け巡るグローバル化やデジタル・トランスフォーメ
ーションが急速に進み、ますます、その規模、スピードを増して
きています。この社会の変化は、全体としては、人々の生活を便
利で豊かにする一方、格差の広がりや社会の分断を生み、変化に

ついていけない人を置き去りにしています。この結果として、自国第一主義やポピュリズムの高まり、超大国による覇権争いなど、国内外の情勢が先行き不透明な状態になっています。特に、このほど発生したロシアのウクライナ侵攻は、これまで経験したことのない世界的危機であり、今後どのような世界になるのか全く想像できません。

さらに、未だに収束の気配がみられない新型コロナウイルス感染の世界的広がりには、このような社会の変化をますます加速しています。New Normalと表現され、人と人との接触を極力少なくすることが求められる、変容した生活様式のなかで、国連が目指す持続可能な社会をどのように実現していくのか、大きな課題に直面しています。

それに対処するキーワードは、「思いやりの心」だと思います。相手を尊重し、相手の立場に立ってモノを考え、行動することです。

皆さんは、本学の理念「人類愛の存するところ、技術への愛もまた存する」のもと研鑽を積んでこられました。この大学の理念こそ、普遍的な人間尊重、人類への愛をうたったもので、「人を思いやる心」にあふれたものであります。

したがって、本学で学んだ皆さんには、この「思いやりの心」は、自ら育まれているものと確信しています。

ところで、先般の東京・北京オリンピック、パラリンピックでは多くの感動がありました。その感動は、選手の皆さんの日ごろの血のにじむような苦しい訓練や努力が与えるものであり、目標に向かって精一杯努力することの大切さを示してくれました。

それから、もう一つ心にとめていただきたいことがあります。それは、選手に対するインタビューにおいて、いずれの選手からも共通して出てくる言葉は、「周囲への感謝のことば」だったということです。

スキージャンプで金メダルと銀メダルを取った小林陵侲選手について、指導者の方が語っておられました。「国際大会への出場を始めたころは、成績は振るわず、取材時の対応もぶっきらぼうだったが、その後、成長して世界トップクラスになるにしたがつて、周囲への感謝を述べるようになった」と。

皆さんに望むのは、これからの人生を、「目標」を定め、「思い

やりの心」と「感謝の心」を持って精一杯歩いてほしいという
ことです。

最後に、皆さんの母校 長崎総合科学大学は、いつでも皆さん
を待っています。懐かしい恩師との語らいや後輩の激励に来てく
ださい。

皆さんが、長崎総合科学大学における良き出会いと学びを財産
とし、感謝と思いやりの心を忘れず、成長した自分自身を信じて、
元気に活躍されることを祈念して、私の式辞といたします。

令和四年三月十五日

長崎総合科学大学

学長 池上 国広